

S O U

奏

Spring 2023

JTB 感動のそばに、いつも。



心躍る瞬間 今ここに

ようやく世界で人々の往来が戻りつつあり、
地球の流れが周り出し始めた。
今日も世界の何処かで感動、興奮、熱狂が生み出されて
その瞬間は現地にいなければ味わえないものです。

もう画面越しではなく、リアルを感じに行きませんか？

私たちJTBは心待ちにした旅と6年ぶりの
心躍る瞬間のお手伝いをいたします。

(株)JTB大阪第二事業部

〒541-0056
大阪市中央区久太郎町 2-1-25 (JTBビル12階)
TEL.06(6260)0150(代) FAX.06(6260)0178
担当:岡田 悠

VOL.

59

CONTENTS

- 1 大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023 開催特集
- 3 コンクール審査委員&フェスタ審査員紹介
- 5 コンクール参加団体紹介
- 7 フェスタ参加団体紹介
- 11 大阪国際室内楽コンクール2023 課題曲の聴きどころ
- 14 作曲家の部屋 vol.1 ブラームス「トゥーン湖」
- 15 民族楽器で旅する世界 vol.1「日本」
- 17 主催公演レポート

編集・発行  公益財団法人
日本室内楽振興財団

〒540-8510 大阪市中央区城見1丁目3-50
TEL.06-6947-2183 FAX.06-6947-2198
www.jcmf.or.jp

6年ぶりの開催！2023年5月、「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」が、大阪・富山・三重の地で開催されます。

2023年3月22日に、「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」の開催記者発表が実施されました。

「大阪国際室内楽コンクール」は、室内楽に取り組む若い演奏家を広く世界に求め、優れた演奏を顕彰するとともに、国際交流を促進すること目的に開催します。

「大阪国際室内楽フェスタ」は、クラシック音楽はもとより民族音楽・伝統楽器も対象とし、審査は聴衆による投票によって行われる、世界にも類を見ない室内楽の祭典です。

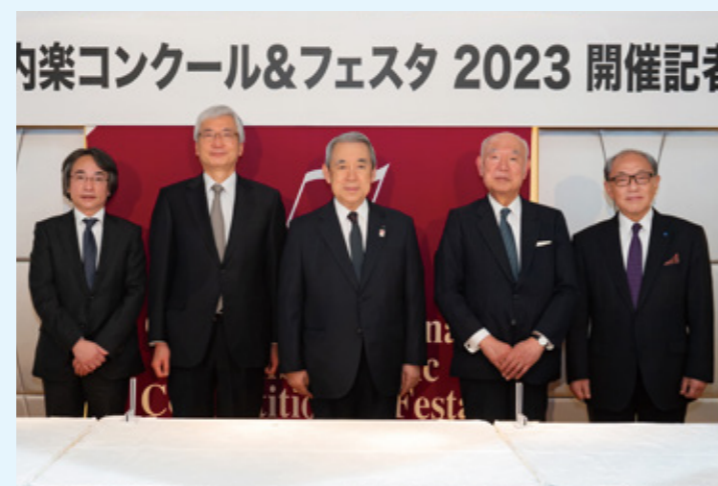
コンクールとフェスタあわせて、世界34か国161団体から応募があり、映像による予備審査を経て13か国33団体の参加が決定いたしました。

コンクール、フェスタともに審査演奏はすべて一般公開され、同時にYouTubeでもライブストリーミングを行います。“大阪チェンバーミュージックホライズン2023”と題して、メイン会場となる住友生命いずみホールを飛び出して地域でのコンサートを開催します。

また同日、大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023特設ウェブサイト(<https://jcmf.or.jp/compefesta2023>)がオープンしました。最新情報は、特設ウェブサイトのほかSNS(Facebook、Twitter)等でご確認いただくことができます。

6年ぶりの開催となる「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」に、ご期待ください。

<https://jcmf.or.jp/compefesta2023>



【登壇者】

開催委員会会長 松本正義(日本室内楽振興財団会長、関西経済連合会会長)
 開催委員会副会長 大橋善光(日本室内楽振興財団理事長、読売テレビ代表取締役社長)
 コンクール審査委員長 堤剛(チェロ/サントリー芸術財団代表理事)
 フェスタ審査委員長 呉信一(トロンボーン/京都市立芸術大学名誉教授)
 運営本部長 牧野立太(日本室内楽振興財団常務理事)

【進行】

総合プロデューサー 河井拓(日本室内楽振興財団)

堤剛 コンクール審査委員長コメント

大阪国際室内楽コンクールは、1993年の第1回から30年を経て、世界的にも高い評価をいただけるコンクールとなりました。コンクール審査委員長として、いかに“世界を舞台に活躍する演奏家”を審査委員に迎えられるか、という点に力を入れました。公明正大な審査を期待することができ、そして教育者として優れた演奏家の皆様が審査委員としてお越しいただけます。

また予備審査では映像審査を行いました。コロナ禍においてもそれぞれが研鑽を積み、練習を重ねていることがよくわかりました。そして応募団体数も大変多く、世界中での室内楽熱の高まりも感じました。高い水準の演奏が期待できる結果となっています。是非、すべての演奏をお聴きいただければと思います。



呉信一 フェスタ審査委員長コメント

今回も世界中からとても多くの団体からの応募がありました。フェスタは課題曲がなく楽器編成が自由で、クラシック音楽のほかにも民族楽器や民族音楽での参加もあるため、全団体を全く同じ条件で審査することはできません。参加団体を決めるにあたり予備審査で採点を行いました。点数だけでなく各団体について審査員全員で協議を行いました。この多様性は数字だけでは測れないという点では、大変な審査であったといえるかもしれません。

今回は、1次ラウンドが富山と三重であります。フェスタの特徴である、お客様が聴いて投票する、ということも楽しんでいただければと思います。是非ご期待ください。



数字で見る コンクール&フェスタ 2023

	応募 総数	参加 団体数
コンクール 第1部門	29団体	10団体
	13か国	6か国
コンクール 第2部門	48団体	11団体
	17か国	7か国
フェスタ	84団体	12団体
	30か国	10か国



2023.5/12▶18

大阪国際室内楽コンクール&フェスタが、ついに6年ぶりに開催となります。

2020年の第10回は、コロナ禍のため延期の上、中止となりました。

今回の「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」は、第10回のコンセプトを継承し、新たな2023年大会として開催します。

「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」は、室内楽に熱心に取り組む若手演奏家たちの発表の機会を作り、日本での室内楽振興を図ることを目的に、1993年から3年ごとに開催、今年で30年目を迎えます。今日では世界7大室内楽コンクールとも評され、世界を目指す若手演奏家たちの目標ともなっています。

今年はどんな熱いステージが繰り広げられるのか――

演奏はすべて公開されるため、世界で活躍する選りすぐりのアンサンブルを一挙に堪能するまたとないチャンスです。

是非会場で、室内楽の“今”をお聴きください。

大阪国際室内楽 コンクール&フェスタ2023開催！

スケジュール・チケット情報

コンクール&フェスタ2023スケジュール

5/12(金)	10:00-20:15	コンクール第1部門 1次予選	10団体	住友生命いずみホール
5/13(土)	10:00-21:00	コンクール第2部門 1次予選	11団体	住友生命いずみホール
	10:30-16:00	フェスタ 1次ラウンド	6団体	富山県高岡文化ホール
5/14(日)	10:30-20:15	コンクール第1部門 2次予選	8団体	住友生命いずみホール
	10:30-16:00	フェスタ 1次ラウンド	6団体	三重県文化会館
5/15(月)	10:30-19:15	コンクール第2部門 2次予選	7団体	住友生命いずみホール
5/16(火)	10:30-17:00	コンクール第1部門 3次予選	5団体	住友生命いずみホール
5/17(水)	10:00-17:30	フェスタ セミファイナル	6団体	住友生命いずみホール
		フェスタ ファイナル	3団体	住友生命いずみホール
5/18(木)	10:00-18:00	コンクール第2部門	3団体	住友生命いずみホール
		コンクール第1部門	3団体	住友生命いずみホール
5/19(金)	14:00-16:30	披露演奏会(大阪)	各第2位、3位、銀賞、銅賞受賞団体	住友生命いずみホール
	19:00-21:00	披露演奏会(大阪)	各1位、メニューイン金賞受賞団体	住友生命いずみホール
5/21(日)	14:00-16:00	披露演奏会(東京)	コンクール1位受賞団体	サントリーホール ブルーローズ

コンクール&フェスタ 審査演奏鑑賞

コンクール&フェスタ審査演奏(大阪) 全席自由 各日**1,000円**
 ※大阪、三重の審査演奏の単日鑑賞チケットは事前販売しません。鑑賞当日にホールでお支払いください。

チケット前売 発売中

審査演奏鑑賞 7日間通し券(5/12-5/18 大阪) 全席自由 **4,000円**
 フェスタ1次ラウンド (5/13 富山) 全席自由 **500円**
 披露演奏会(大阪) 全席指定各回 **2,000円**
 2公演セット券 全席指定 **3,000円**
 披露演奏会(東京) 全席指定 **2,000円**

チケット予約/販売

住友生命いずみホールチケットセンター
06-6944-1188 (10:30-17:00 日祝休業)
<https://www.izumihall.jp/>
 富山県高岡文化ホール
0766-25-4141 (9:00-22:00 火曜休館)
 アーツナビ <https://www.arts-navi.com/>
 サントリーホールチケットセンター
0570-55-0017 (10:00-18:00 休館日休業)
<https://suntory.jp/HALL/>
 チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023 地域プログラム 大阪チェンバーミュージック・ホライゾン

室内楽の祭典として発信すべく、大阪国際室内楽コンクール&フェスタ参加団体が住友生命いずみホールを飛び出し、地域と協働したコンサートを開催します。



チェンバーミュージックホライゾン 7回チャリティ

1 読売テレビ 10 plaza

5/15(月) 12:00開演
 入場無料、予約不要
 会場:読売テレビ 10plaza
 (住友生命いずみホールより徒歩3分)
 主催:公益財団法人日本室内楽振興財団、読売テレビ

2 今福音音楽堂

5/15(月)、16(火)、17(水)、各日19:00開演(18:30開場)
 チケット 各日一律500円
 会場:今福音音楽堂
 (大阪府城東区今福東1丁目10-5 イズミヤ今福ファミリータウン3階)
 TEL/06-6167-7242 Mail/info@reisemusic.com
 主催:公益財団法人日本室内楽振興財団、一般社団法人Reise

詳しくは日本室内楽振興財団ウェブサイト(www.jcmf.or.jp)をご確認ください

コンクール 審査委員



審査委員長
堤 剛
 日本/チェロ
 サントリー芸術財団代表理事



マーティン・ビーヴァー
 アメリカ/ヴァイオリン
 元東京クワルテット



ウェイガン・リ
 アメリカ/ヴァイオリン
 上海クワルテット



澤 和樹
 日本/ヴァイオリン
 澤クワルテット



モニカ・ヘンシェル
 ドイツ/ヴァイオリン
 ヘンシェル・クワルテット
 [第2回コンクール第1部門優勝]



元淵 舞
 アメリカ・日本/ヴィオラ
 元ポロメーオ弦楽四重奏団



アラスデア・テイ
 イギリス/チェロ
 元ヘルチャ・クワルテット
 [第3回コンクール第1部門優勝]



ヴァンサン・コック
 フランス/ピアノ
 トリオ・ヴァンダラー



エックルト・ハイリガーズ
 ドイツ/ピアノ
 トリオ・ジャン・ポール
 [第1回コンクール第2部門優勝]



練木 繁夫
 日本/ピアノ
 桐朋学園大学名誉教授

フェスタ 審査員



審査員長
呉 信一
 日本/トロンボーン
 京都市立芸術大学名誉教授



副審査員長
河野 正孝
 日本/オーボエ
 関西室内楽協会代表



左記2名に加え、事前に公募した一般審査員の投票によって審査します。(募集は終了しています。)フェスタの審査方法については、詳しくは巻58号P.5をご覧ください。

コンクール&フェスタ2023 5つのポイント

01 POINT

過去の優勝団体のメンバーから コンクール審査委員を招聘

過去のコンクール優勝団体のメンバーを審査委員として3名招聘します。

02 POINT

海外の室内楽コンクールや フェスティバルとの提携協力

ポルドー弦楽四重奏フェスティバル(フランス)、ストリング・クワルテット・ビエンナーレ・アムステルダム(オランダ)、VdSQ & Festival 4(ドイツ)と提携し、各特別賞に入賞した団体を派遣、コンクールの入賞後もキャリア支援を行います。

03 POINT

望月京作曲の大阪国際室内楽コンクール 委嘱作品を課題曲に

コンクール第1部門3次予選の課題曲として、大阪国際室内楽コンクールが2020年に委嘱した作品「Boids Again」を演奏します。未来をつくる現代の作品を聴くチャンスです。

04 POINT

フェスタ1次ラウンドを 富山と三重で開催

多彩な室内楽の魅力、楽しみを味わうことのできる“フェスタ”の1次ラウンドを、5/13(土)富山県高岡文化ホール、5/14(日)三重県文化会館で開催します。

05 POINT

地域コンサート “大阪チェンバーミュージック・ホライゾン”を開催

室内楽の祭典として発信すべく、コンクール&フェスタ開催期間中に地域と協働したコンサートを開催します。



String Quartet
Biennale
Amsterdam



「大阪国際室内楽コンクール」は、室内楽に取り組む優秀な音楽家を世界に広く求め、優れた演奏を顕彰し、人材を育成するもので、「国際音楽コンクール世界連盟」の基準に基づいて運営します。コンクールは3年に1回行われ、第1部門は弦楽四重奏、第2部門はピアノと管楽アンサンブルとの交互開催となっており、2023年はピアノ三重奏／四重奏で開催します。取り組む課題曲も幅広く、世界から集まった精鋭たちによる室内楽の“今”を聴くことができます。

大阪国際室内楽コンクール2023

音楽家の育成を目的に『音楽の原点』を求める国際コンクール



コンクール第2部門紹介

■大阪国際室内楽コンクール第2部門参加団体 (2023年3月22日時点)



アルベニス・トリオ(オランダ)

ハビエル・ラメイクス (ピアノ)
ルイス・マリア・スアレス (ヴァイオリン)
パウラ・プリセラ (チェロ)



トリオ・シャガール(スイス)

ロレンソ・グエン (ピアノ)
エドアルド・グリエコ (ヴァイオリン)
フランチェスコ・マッシミーノ (チェロ)



トリオE.T.A.(ドイツ)

ティル・ホフマン (ピアノ)
エレネ・メイバリアニ (ヴァイオリン)
ティル・シュラー (チェロ)



トリオ・ガイア(アメリカ)

アンドリュー・バーンウェル (ピアノ)
グラント・ヒューストン (ヴァイオリン)
イーメイ・テンブルメン (チェロ)



トリオ・ミケランジェリ(ドイツ)

リカルド・ガリアルティ (ピアノ)
パオロ・タリアメント (ヴァイオリン)
アレサンドラ・ドニネリ (チェロ)



トリオ・オレロン(ドイツ)

マルコ・サンナ (ピアノ)
ユティス・スタフ (ヴァイオリン)
アルナウ・ロヴィラ・バスコンプト (チェロ)



トリオ・パントウム(フランス)

ヴィオジル・ロツシュ (ピアノ)
ヒューゴ・メテール (ヴァイオリン)
ボーゲン・バク (チェロ)



ポルトス トリオ(日本)

菊野 惇之介 (ピアノ)
吉村 美智子 (ヴァイオリン)
木村 藍圭 (チェロ)



ソレリ・トリオ(ドイツ)

アセン・タンチェフ (ピアノ)
ダイニス・メディヤニク (ヴァイオリン)
モリッツ・ヴァイガート (チェロ)



カピバラ・ピアノ・クアルテット(ドイツ)

マリオ・ヘリング (ピアノ)
岡田 脩一 (ヴァイオリン)
近衛 剛大 (ヴィオラ)
ミンジ・キム (チェロ)



ウェルテル・ピアノ・クアルテット(イタリア)

アントニーノ・フィウマラー (ピアノ)
ミッシャ・イアンノ・セバスチアーニ (ヴァイオリン)
マルティーナ・サンタローネ (ヴィオラ)
ヴラディミール・ボクダノビッチ (チェロ)

コンクール第2部門

1次予選 5/13(土)
2次予選 5/15(月)
本選 5/18(木)

コンクール第1部門紹介

■大阪国際室内楽コンクール第1部門参加団体 (2023年3月22日時点)



アスト・クアルテット(ドイツ)

サンムン・キム (ヴァイオリン)
ミンジュ・バク (ヴァイオリン)
ジンジュ・ヤン (ヴィオラ)
ウンジュ・チョン (チェロ)



ほのカルテット(日本)

岸本 萌乃加 (ヴァイオリン)
林 周雅 (ヴァイオリン)
長田 健志 (ヴィオラ)
蟹江 慶行 (チェロ)



クアルテット・インダゴ(イタリア)

エレノラ・マツノ (ヴァイオリン)
イダ・ディ・ヴィータ (ヴァイオリン)
ジャミアング・サンティ (ヴィオラ)
コジモ・カロヴァニ (チェロ)



マリオン・クアルテット(ドイツ)

アレクサンダー・ユーツフ (ヴァイオリン)
永原 美紀 (ヴァイオリン)
リリヤ・ティムチシン (ヴィオラ)
ベティナ・ケスラー (チェロ)



ミラ・クアルテット(中国)

コ・チュ (ヴァイオリン)
ホワン・ツ (ヴァイオリン)
チャンジュエン・リウ (ヴィオラ)
シンヤン・リュ (チェロ)



モーザー弦楽四重奏団(スイス)

宮下 華音 (ヴァイオリン)
パトリシア・ムロ・フランシア (ヴァイオリン)
アリアドナ・バタジェル・カラタユド (ヴィオラ)
レア・ガラツ (チェロ)



ラサ弦楽四重奏団(アメリカ)

林 清 (ヴァイオリン)
モラ・ショーン・スキャンリン (ヴァイオリン)
エマ・パウエル (ヴィオラ)
ミナ・キム (チェロ)



テラ弦楽四重奏団(アメリカ)

ハリエット・ラングリー (ヴァイオリン)
アメリカ・ディートリック (ヴァイオリン)
ラモン・カレロ・マルティネス (ヴィオラ)
オードリー・チェン (チェロ)



タレイア・クアルテット(日本)

山田 香子 (ヴァイオリン)
二村 裕美 (ヴァイオリン)
渡部 咲耶 (ヴィオラ)
石崎 美雨 (チェロ)



ヴィヴァーチェ・クアルテット(中国)

ティエンロン・マイ (ヴァイオリン)
ウェイ・ユ (ヴァイオリン)
チアソン・バイ (ヴィオラ)
ツウルウー・ニウ (チェロ)

コンクール第1部門

1次予選 5/12(金)
2次予選 5/14(日)
3次予選 5/16(火)
本選 5/18(木)

大阪国際室内楽コンクールの過去の入賞団体は、その後も目覚ましい活躍を続け、今も室内楽の第一線で活躍する団体が多くいます。

大阪国際室内楽コンクール入賞者の今

ノトス・ピアノ・クアルテット(ドイツ、2014年第8回第2部門第2位)



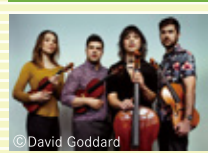
大阪で入賞後、ドイツ・エコー賞を受賞し注目を浴びました。定期的に訪れている東南アジアでは演奏活動のみならず若い音楽家たちのキャリア形成を促進することに力を入れています。

ベルチャ・クアルテット(イギリス、1999年第3回第1部門第1位)



様々な作品の初演を行い、弦楽四重奏のレパートリーを継続的に拡充するとともに、若手演奏家を指導しサポートすることで、アルバン・ベルク四重奏団とアマテウス四重奏団から受け継いだ伝統を次世代へと繋いでいくことを目標とし活動しています。

アタッカ・クアルテット(アメリカ、2011年第7回第1部門第1位)



2020年に続き、2023年もグラミー賞受賞！作曲家とタッグを組み、最前線をゆくクアルテット。アメリカの室内楽シーンに欠かせない存在です。2022年9月には、日本室内楽振興財団主催公演に出演しました。

ドーリック・クアルテット(イギリス、2008年第6回第1部門第1位)



今や英国を代表するクアルテットとして、欧州を中心に世界中で演奏活動を行っている。2019年11月、2023年2月には、日本室内楽振興財団主催公演に出演しました。

ヘンシェル・クアルテット(ドイツ、1996年第2回第1部門第1位)



ミュンヘンを拠点に、世界の第一線で活躍を続けています。メンバーはドイツ弦楽四重奏連盟の設立から要職に携わるなど、ヨーロッパの室内楽界を牽引しています。2012年にはサントリーホール・ベートーヴェンサイクル(弦楽四重奏全曲演奏)に抜擢されました。

ロータス・クアルテット(日本・ドイツ、1993年第1回第1部門第3位)



結成当時は日本で活動していましたが、やがてドイツへ拠点を移し、今や欧米の室内楽シーンには欠かせない存在に。2023年2月には、結成30周年記念コンサートを、住友生命いずみホールや東京等で開催しました。

クアルテット・エクセルシオ(日本、1996年第2回第1部門第2位)



日本の室内楽界のトップランナーといえる弦楽四重奏団。サントリーホール室内楽アカデミーでファカルティを務めるなど、後進の育成にも力を入れています。2019年7月、2022年2月には、日本室内楽振興財団主催公演に出演しました。

トリオ・ジャン・ポール(ドイツ、1993年第1回第2部門第1位)

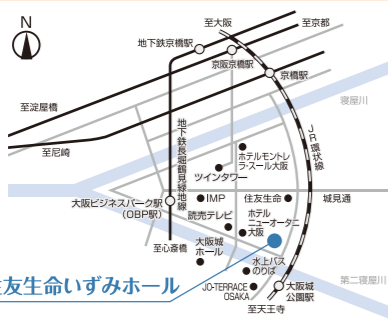


ウィーン・コンツェルトハウスやウィグモアホールなど欧州の主要コンサートホールに招聘され、録音も数多くリリースしているピアノ三重奏団です。現代作品にも積極的に取り組み、著名な作曲家の作品初演も数多く行っています。

「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023」は、国内4会場で開催します!

大阪 5/12(金)~19(金)
住友生命いずみホール

〒540-0001 大阪府大阪市中央区城見1丁目4-70



大阪環状線「大阪城公園駅」徒歩5分
東西線/大阪環状線「京橋駅」徒歩10分
京阪本線「京橋駅」徒歩15分
長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク駅」徒歩10分

富山 5/13(土) フェスタ1次ラウンド
富山県高岡文化ホール

〒933-0055 富山県高岡市中川園町13-1 0766-25-4141
JR氷見線越中中川駅より徒歩1分



三重 5/14(日) フェスタ1次ラウンド
三重県文化会館

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234 059-233-1122
近鉄名古屋線・JR在来線・津駅よりバス乗車10分



東京 5/21(日) 優勝団体披露演奏会
サントリーホール

〒107-8403 東京都港区赤坂1-13-1
東京メトロ南北線 六本木一丁目駅3番出口より徒歩5分
東京メトロ銀座線・南北線 溜池山王駅13番出口より徒歩7分



大阪国際室内楽フェスタ2023

年齢制限なし! 課題曲なし! 一般審査員が賞を決めるユニークな音楽祭

ヴァイオリニストで教育家のユーディ・メニューイン卿の提唱により、大阪国際室内楽コンクールとともに始まった大阪国際室内楽フェスタ。年齢制限や課題曲がなく、楽器の種類や編成も自由です。このため、クラシック音楽はもとより、世界各国の民族楽器も対象となります。

2023年は1次ラウンドを富山・三重で、セミファイナル&ファイナルラウンドを大阪住友生命いずみホールで開催。一般審査員の投票によって審査が行われ、世界でも他に類を見ないユニークな音楽祭として、国際的に広く知られています。

■大阪国際室内楽フェスタ2023 参加団体 (2023年3月22日時点)

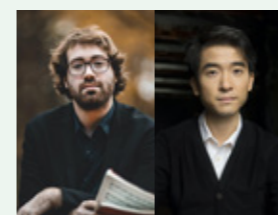
5/14(日) 三重



A4プラス・カルテット(イギリス)
マイケル・スミス (ホルネット/フルーゲルホルン)
ジョナサン・ベイツ (テナーホルン)
マイケル・キャヴァナ (バリトンホルン)
クリストファー・ロバートソン (ユーフォニアム)



バイカル・ヴィア(ロシア)
アリョーナ・ガルチュコワ (ドムラ)
ヴァンリ・シェキン (ドムラ)
イーゴリ・スタコフ (コントラバス/バラライカ)



Mr.パーク & MCヴァイザート(ドイツ)
朴 知利 (ピアノ)
マイケル・コーエン・ヴァイザート (ピアノ)



クワチュオール・エオリーナ(フランス)
チボー・トロセット (アコーディオン)
ヨアン・ジュエル (アコーディオン)
テオ・ウルド (アコーディオン)
アントニー・ミエ (アコーディオン)



クインテット・ル・パトール・イーヴル(フランス)
サミュエル・カザール (フルート)
セレナ・マンガナス (ヴァイオリン)
ヴァロンタン・チャペロ (ヴィオラ)
ケヴィン・ブルダ (チェロ)
ジョン・パティスト・エイヤ (ハープ)



テンゲル・アヤルゲー(モンゴル)
バダルチ・バト・オルシフ(ヨーチン)
ツェベグレン・ツェレンバルジル (リンベ)
ジュルメドドルジ・ノルドグ (エベルプレー)
テムジン・プレブフー (馬頭琴)
ムンフエルデネ・エルデネバト (バス馬頭琴)

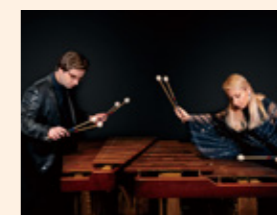
5/13(土) 富山



デュオ・モルガン・トレウブ(オランダ)
ショーン・モルガン=ルーニー (ピアノ)
バース・トレウブ (ヴァイオリン)



カムブラス・クインテット(スイス)
ギレム・カルドナ・サエラ (トランペット)
ジュアン・バミエス・マグラネ (トランペット)
マリア・セルヴェラ・モンソラート (ホルン)
ザヴィエ・ジル・パテート (トロンボーン)
オリオル・レヴェルテ・クルト (チューバ)



ルシッド・デュオ(オーストリア)
イレナ・マノロヴァ (マリンバ)
トマシュ・ゴリンスキ (マリンバ)



スタス&タチアナ(アメリカ)
スタス・ヴェンゲレフスキー (バヤン)
タチアナ・クラスノバエヴァ (ダルシマー)



タラフ・デ・キシナウ(モルドバ)
マリナ・ブニャ (ヴァイオリン)
セルジウ・ティアコヌ (コバザ)
イオン・クロイトル (コントラバス)
ミハイ・ソロカン (アコーディオン)



東京リード・クインテット(日本)
恒松 勇希 (オーボエ/イングリッシュホルン)
村瀬 和也 (クラリネット)
奥田 和希 (バスクラリネット)
大西 智氏 (ソプラノサクソフォーン)
石田 知史 (ファゴット)

1日でコンクール&フェスタ全部門見たい方は!

優勝団体披露演奏会

5/19(金) 14:00開演 / 19:00開演
住友生命いずみホール

全席指定 各回2,000円 2公演セット券 全席指定 3,000円
14:00開演 コンクール各部門第2位・第3位、フェスタ銀賞・銅賞受賞団体
19:00開演 コンクール各部門第1位、フェスタメニューイン金賞受賞団体

5/21(日) 14:00開演
サントリーホール ブルーローズ

全席指定 2,000円
コンクール各部門第1位受賞団体



2017コンクール第1部門第1位アイズリ・カルテット

そしてこれから毎年秋には!
グランプリ・コンサート

コンクール各部門の第1位、フェスタのメニューイン金賞受賞団体は2023年から2025年にかけて、毎年秋に日本国内約10都市を巡るコンサートツアーに参加します。あなたの街にも、優勝団体が訪れるかも?

- 第1部門 2023年10月後半~11月
- 第2部門 2024年10月後半~11月
- フェスタ 2025年10月後半~11月

グランプリコンサート2019
デュオ・プロコピエフ=ダフチャン



Q コンクールは参加団体全部を聴かないといけないのでしょうか？



A まず忘れていただきたいのは、「室内楽コンクールには天才は現れない」ということ。個々人の才能や個性は隠せないとしても、アンサンブルとしての力量は練習の時間とやり方に比例します。天才弦楽器奏者が4人集まりいきなり弾いても、弦楽四重奏の名演は絶対に不可能。ピアノ三重奏は、またちょっと微妙な違いがあるのですが…
最高の演奏をしようと鍛えてきたアンサンブルが、ありったけの力で奏でる音楽を聴きたいならば、**どのステージのどの演奏でも大丈夫**です。大阪のようなレベルの大会では、力を抜いた演奏はやれません。独奏コンクールで優勝候補のプレイヤーがときおりやる「次のステージのために余力を残す」などという芸当は、グループ大会では不可能です。

いろいろな演奏のキャラクターを楽しみたいなら、少し時間を費やすべきでしょう。なにしろ、ステージへの入り方、座り方、音合わせの仕方、最初の音が出る前の空気感、なにからなにまで違います。そして、全ての参加者を追って聴いていくと、人間ドラマが嫌でも見えてきます。コンクールを描く劇映画のような感動はステージ上だけでは判らないかもしれませんが、落ちて泣くヴァイオリニスト、平気そうなチェリスト、無然としているピアニスト、そんないろいろな姿を目の前で見るだけでも、翌日からの音楽の聴こえ方が違ってくるはず。
ちなみに大阪のチケットは、1団体聴いても複数団体聴いても、お値段は変わりません。ひとまず騙されたと思って、半日くらい座ってみてはいかが。

そこがききたい！ 室内楽コンクールのナゾ

渡辺 和 (音楽ジャーナリスト)



3年に一度の大阪コンクール&フェスタがやってくる。フェスタといえば、「みんなが審査員、素晴らしいと感じさせた方が勝ち!」と、なんとも判りやすい。でも、もうひとつの柱のコンクールは、いささか敷居が高いかも。室内楽は地味で難しそうだし、曲も《死と乙女》くらいしか知らないし、どっちが良いかなんてまるで格付けチェックだし…。そんな「コンクールはちょっと…」という皆様の不安や、他人には訊けない素朴な疑問を、世界中の室内楽コンクールを眺めること四半世紀、大会専門委員も務める音楽ジャーナリスト渡辺和氏にぶつけてみよう。

Q コンクール部門を一日だけ聴くなら、どの日がお薦めですか？



A 安定した音楽をたくさん聴きたければ1次予選か2次予選。どんな個性のグループがいるか知りたければ3次予選。人間ドラマと力演を現場で体験したければファイナル、というところでしょうか。
コンクールが一次審査、二次審査、最終審査、と審査を繰り返すのは、芸術の評価には様々な物差しがあるからです。
一般的に言って、最初のステージは「ちゃんと弾けるか」をチェックします。大阪のような世界最高水準の大会の場合、このレベルをクリアする地力は予備審査で確認されています。つまり、どの団体も上手、という。ですが、実際にステージの上で上手さがきちんと再現出来るかは判らない。それが審査の目的です。二次審査も、性格の違う楽譜で同様の作業が繰り返されます。
セミファイナルになってくると、グループの独自のやり方や考え方が評価の視野に入ってきますね。前回の大阪では、自分らの個性をアピールするプログラムを組む能力も問われていました。ツウは、コンクールの性格や水準はセミファイナルで判る、ともおっしゃいます。
音楽マネジメントの世界では、アンサンブルの

コンクールならファイナルに到達すれば「合格」。あとは、当日の出来と、審査員との相性次第です。ちなみに口の悪いジャーナリストの間では、「アンサンブル・コンクールの本選は負け比べ」という皮肉な諺があります。独奏のコンクールでは絶対にない、室内楽大会の特色ですね。
若いグループとすれば、どんなに地力と経験があろうが、本選に求められる要求の高さは猛烈なもの。でも、どんなに下馬評が高かろうが確実にファイナルまで来る保証はありませんから、1次や2次予選の演目に練習時間が偏るのは仕方ありません。その結果、ステージが進むに従い、アンサンブルの精度が落ちるのは必然なのです。
かくてファイナルステージは、プロとしてギリギリでどこまでやれるかの危機管理と度胸を試される場となります。結果発表の講評で審査委員長が「レベルが高いコンクールだった」とニコニコとおっしゃったなら、ファイナルまでの全体的な技術水準が安定していた、という意味と思って間違いではないです。
さあ、大阪国際室内楽コンクール2023、はじまりはじまり。お楽しみあれ。

Q 拍手をしたり、スタンディングオベーションをしてもいいのでしょうか？



A ステージで音楽家が演奏し客席で聴衆が聴くイベントですから、コンクールも普通のコンサートと変わりません。いつもの振る舞い方をすれば、基本はOKです。ただ、大きな違いがひとつあります。フェスタと違い、コンクール参加者にとって音楽を聴いて貰う最も大事な相手は審査員だ、という事実。私たちだって客じゃないか、とおっしゃりたい気持ちは分かります。ですが、コンクールには「お客さん」は存在しないのです。**客席の聴衆も含め、全員が「参加者」**。ホールの入口で払うチケット代は、コンクールというイベントへの参加費だと思ってください。

会場に流れる空気は、コンクールによって様々です。世界からマニアックな聴衆が集まるバンフ国際弦楽四重奏コンクール(加)のどこか冷静な高揚感もあれば、国際大会が大好きなメルボルン国際室内楽コンクール(豪)のスポーツ会場のようなストレートな熱狂もあります。拍手やスタンディングオベーションを禁止する規定は、大阪にはありません。ですから、会場の空気は皆さんが作って下さるものなのです。針が落ちて聞こえる緊張感が支配するのか、熱い拍手が飛び交う祭りなのか、それは大阪の音楽ファンの皆さん次第。

Q ベルリンで勉強している私の友人の弦楽四重奏団は、第1ヴァイオリンが韓国系カナダ人で、第2ヴァイオリンがフランス人で、ヴィオラが日本人で、チェロがモナコ国籍のロシア人です。大阪に参加すると、どこの国の代表とされるのでしょうか？



A グループで参加する室内楽コンクールならではの疑問ですね。正直、案外面倒な問題です。なにしろ参加者が有するパスポートによって、日本入国の事務手続きは様々。プロ音楽家が多数参加するフェスタは、書類仕事だけで一苦労だそう。
現状、団体の国籍表記は各コンクールの判断に任せられ、国際コンクール世界連盟にも規約があるわけではありません。例えば、パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール(伊)やミュンヘンARD国際音楽コンクール弦楽四重奏部門(独)、ウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクール(英)の大会では、参加者個々の出身国と現在拠点とする都市の名前が併記され、「どこの国の団体」とは明記していませんね。大阪の対応を事務局に尋ねたところ、「原則、拠点としている国にしています」とのこと。なるほど、どこから大阪に来るかで決めるわけですね。現実的な対応でしょう。確かに、東京クワルテットやタカーチ・カルテットはアメリカの団体になるわけだし。

ベートーヴェンが至高の世界へと 導いた弦楽四重奏

2023年の大阪国際室内楽コンクール(以下コンクールと表記)の第1部門は「弦楽四重奏」。2つのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロで演奏されるこの形態は、室内楽の中心的存在と言っている。それは、切り詰められた弦楽4声部によって、精妙かつバランスのとれた響きや、凝縮度と雄弁さを兼ね備えた音楽が生み出されるからであろう。従って、著名な作曲家の多くが作品を残しているし、常設のグループも数多い。しかしながら、彫琢された響きと音楽を奏するには、アンサンブルへの細やかな配慮と積み重ねが必要となる。すなわち、ソリスト4人が即席で演奏しても様にならない(ゆえに常設のグループが多い)のが、この形態の難しさであり妙味でもある。

弦楽四重奏の様式を実質的に確立したのはウィーン古典派のハイドンで、彼は68曲もの弦楽四重奏曲を残し、モーツァルトが23曲を書いて継承した。そしてこの形態を至高たらしめたのが、二人からバトンを受けたベートーヴェンだ。

ベートーヴェンの16曲の弦楽四重奏曲は、9曲の交響曲、32曲のピアノ・ソナタと並ぶ不滅の金字塔であり、バイブルとも称されている。その作品は、1800年頃に完成した初期のOp.18(第1〜6番)、1806〜1810年に完成した中期の5曲(第7〜11番)、1825〜1826年に完成した

Ludwig van Beethoven



PROGRAM NOTES

本選課題曲の聞きどころ

柴田克彦(音楽ライター)

後期の5曲(第12〜16番)と、本格的な創作人生全般に亘っている。

コンクールの本選では、後期の5曲が課題曲になっている。これらは、最後の交響曲やピアノ・ソナタを創作後に書かれた、いわば楽聖の到達点である。5曲は、自由に構成された内省的かつ幻想的な音楽で、その深遠な内容から独自の宇宙を形成している。なお番号は出版順で、実際は12↓15↓13↓14↓16番の順に完成された。

1822年春、12年ぶりに弦楽四重奏曲の創作を企図したベートーヴェンは、同年末に折良くロシアの貴族ガリツィン侯爵から「1〜3曲の新たな四重奏曲」を依頼された。しかし本格的な着手は1924年5月の「第九」初演後のこと。12番が完成されたのは1825年2月で、この後さらにガリツィン侯のための2曲「15番」と13番が続く。

第12番は形こそ通常の4楽章構成だが、内容は幻想的な後期の世界。全体に柔らかなみと対位的な書法が際立っている。第15番は初の5楽章構成。冒頭に「病癒えし者の神に対する聖なる感謝のうた」、第2の部分に「新しい力を感じつつ」の言葉が記された第3楽章が、全体の中心をなしている。この曲は、叙情的な親しみやすさと晩年の深みや風格を併せ持つ名作ゆえに、後期5曲の中でも演奏機会が多い。第13番は全6楽章の組曲風の作品。抒情的な5つの楽章に巨大なフーガが続く形で完成されたが、終楽章が晦渋だと批判された。ベートーヴェンは、1826年に軽快で明快な楽章を書いて差し替え、元々の終楽章は「大フーガ」として単独で世に出した。ただし最近では本来の姿に戻すケースも多く、コンクールでは両方の形が可能となっている。

第14、16番はおそらく自発的に作曲された。第14番は、遂に7楽章構成となり、しかも全体が切れ目なく続いていく。様々な形式を経ながら思索的かつ自在に流動していく音楽は、まさに至高の世界だ。第16番は逝去前年の1826年10月に完成された。ベートーヴェン最後の大作だが構成は古典的な4楽章に戻り、清澄な明るさと解脱

ソロとアンサンブルの魅力が 融合したピアノ三重奏

代わってロマン派の作曲家に好まれたのは、ピアノが入る室内楽曲で、コンクールの第2部門は、ピアノ三重奏とピアノ四重奏が対象となっている。

ピアノ、ヴァイオリン、チェロによるピアノ三重奏は、各楽器のソロの妙技、三位一体となったまとまりの良い響き、3楽器の多様な絡み合い等が魅力。いわば万能の形態だ。それゆえ、弦楽四重奏とは違ってソリストの集合体が成功するケースも多い。

ピアノ三重奏の実質的な草分けもやはりハイドン。彼は約45曲を生み出し、続くモーツァルトも6曲を完成した。そこに進化をもたらしたのは、またもやベートーヴェンだ。彼のピアノ三重奏曲は1795年出版の「作品1」に始まり、1811年作の第7番で頂点を極めた。

コンクール本選の課題曲になっている第7番は「大公」の愛称で知られる。これはピアノと作曲の弟子で最有名パトロンのルドルフ大公に献呈されたことに由来している。曲は、3つの楽器が各々の美点を最高度に発揮しながら見事に融合した、雄大で品格のある音楽。円熟の書法で隙なく構成され、協奏曲的要素も持った多彩な楽想が展開される。

さらに同形態に大きな足跡を記したのがシューベルトである。コンクール本選の課題曲となっている2曲は、最晩年の1827年(または28年)の作。雄大で歌に充ちたシューベルトならではの魅力溢れる両曲は、同形態の重要レパートリーとなっている。第1番は愛らしい旋律、絶妙な転調、温かなロマンティズムが魅力の作品で、第2番も壮大な構成の中で多様な旋律が綿々と展開される。

その後は、メンデルスゾーン、ブラームス、ドヴォルザーク、ラヴェルほか多数の作曲家がピアノ三重奏の名曲を生み出し、ロシアでは、チャイコフスキー、ラフマニノフ、ショスタコーヴィチ等が、恩人や友人を追悼する際にピアノ三



Franz Peter Schubert

したような「軽み」を湛えている。

同時期ウィーンにいた「歌曲王」シューベルトにも、番号で呼ばれる弦楽四重奏曲が15曲ある。中でも第14番「死と乙女」は当形態の代表曲として名高い。ただしコンクール本選の課題曲になっているのは次の第15番。管弦乐的な発想で書かれたシリアスな大作で、やはり孤高の世界を形成している。ちなみにこの曲は、ベートーヴェンの第16番と同じ1826年に完成された。

ロマン派の時代にも多数の弦楽四重奏曲が生まれたが、絶対的な主力形態ではなくなった。しかし20世紀になるとバルトークの6曲、ショスタコーヴィチの15曲によって立場を回復。その重要性は現代にも引き継がれている。

Johannes Brahms

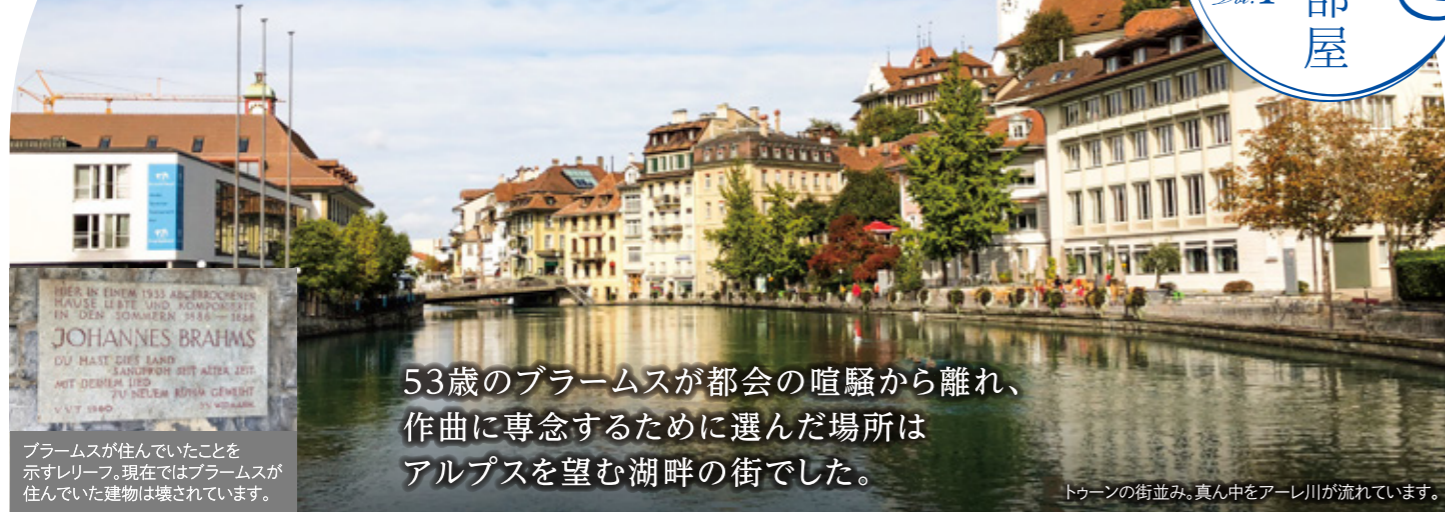


Johannes Brahms

ブラームス「スイス・トゥーン湖」

作曲家の部屋

2021



53歳のブラームスが都会の喧騒から離れ、作曲に専念するために選んだ場所はアルプスを望む湖畔の街でした。

トゥーンの街並み。真ん中をアーレ川が流れています。

ブラームスが住んでいたことを示すレリーフ。現在ではブラームスが住んでいた建物は壊されています。

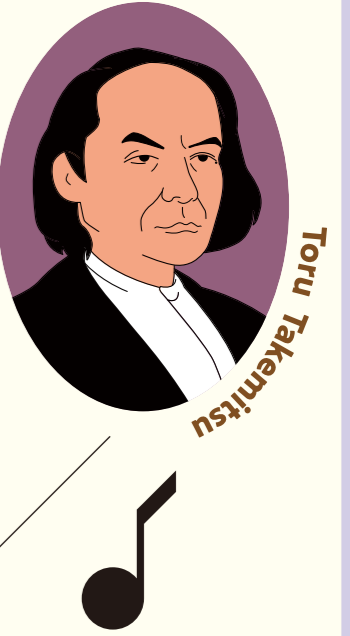
重奏曲を作曲した。
また、今回のコンクール本選では、日本を代表する国際的作曲家・武満徹の「ピトウイン・タイズ」が課題曲になっている。この曲は、1993年にベルリン・フェスティヴァルの委嘱で書かれた晩年の作。上行する6つの音を主要な素材とした、緩やかに移ろいゆく音楽で、作曲家自身は「タイズ (Tides)」は、海の波を暗示すると同時に、季節を意味する「この作品で重要なのは、色彩の変化の推移であり、ヴァイオリンとチェロには、弓の圧力の指定がなされている」との旨を述べている。

協奏曲と弦楽四重奏の特性を併せ持つピアノ四重奏

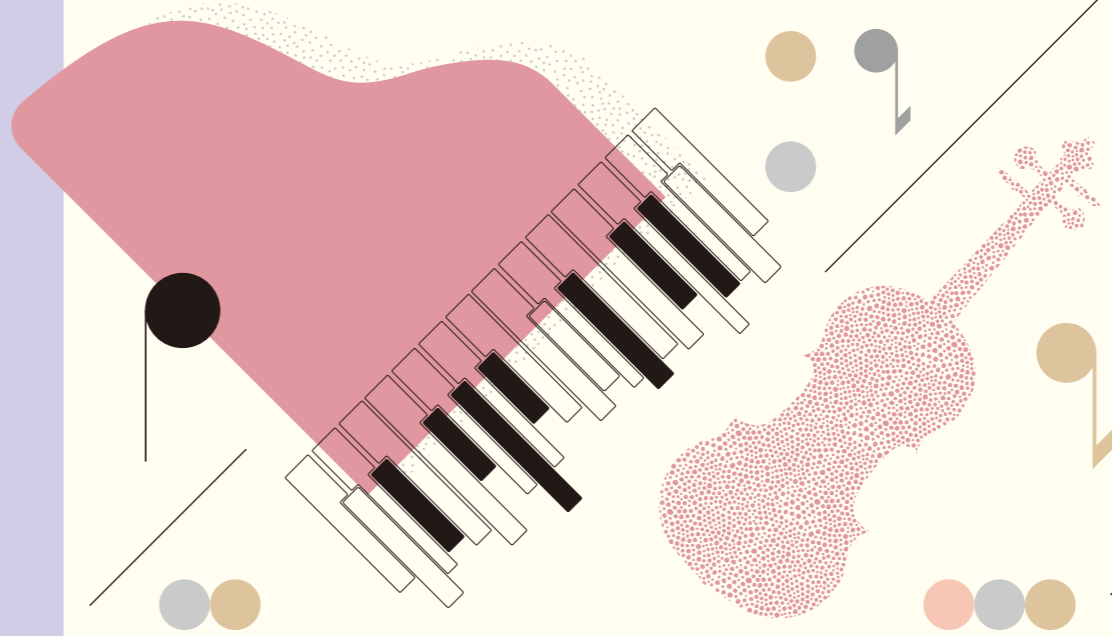
ピアノ三重奏にヴィオラを加えたピアノ四重奏は、ソリステイックなピアノと二群で動く弦楽器3本の対比や交替の妙と、4つの楽器の緊密性、すなわち協奏曲と弦楽四重奏の特性を兼ね備えている。始まりは三重奏よりも若干遅く、史上最初の名作は、1785〜86年に完成されたモーツアルトの2曲である。これは、室内楽で主にヴィオラを弾いたモーツアルトが、ピアノ三重奏に自らの楽器を加えるべく発想したともいわれている。

同形態が開花するのはロマン派の時代で、メンデルスゾーン、シューマン、ブラームス、ドヴォルザーク、フォーレ等の大家が珠玉の名品を残している。中でも人気が高く、演奏機会も多いのがブラームスの3曲だ。彼が書いた3つのピアノ四重奏曲は、1855年頃同時に着手された初期の所産。これは、1854年に恩人シューマンが自殺(未遂)を喫り、1856年に逝去して、ブラームスがその妻クララへの思慕を募らせた20代前半の時期にあたる。なお第1、2番は1861年に完成されたが、第3番は、1856年に一旦完成されながら、1873〜75年の改訂後に発表された。

20代に着想されたこれら3曲には、多感な青年期の心模



Toru Takemitsu



都会の喧騒から離れて

ブラームスは作曲家としてだけでなく、ピアニスト、指揮者、教育者としてウィーンで活動していました。むしろウィーンでの活動は、演奏活動や社交が大半で、腰を据えて作曲をする時間はありませんでした。そこでブラームスは夏の休暇に、田舎に家を借りて作曲をするようになりました。



ブラームスが住んでいた場所から撮影したトゥーン湖。

1886年(53歳)、ブラームスが作曲活動に専念する土地として選んだのが、スイスのトゥーンという場所でした。スイスには雄大なアルプス山脈が国土の3分の2に横たわっており、岩肌が剥き出しの山々が広がっています。岩山の割れ目からは溶けた氷河が川を形成し、あらゆる場所に湖を作り出しており、トゥーンも例に漏れません。
ブラームスがこの街に来る経緯となったのは、スイス出身の詩人ヨゼフ・ヴィクトール・ヴィートマンとの出会いです。ヴィートマンとは、過去にブラームスと共にオペラの構想を練ったほど深い仲を築いていましたが、その彼がブラームスにトゥーン滞在を勧めました。1886年5月、本格的な夏が到来する前にトゥーンへ到着し、湖に面した家のバルコニー付き2階を借りたのです。そして3年にわたって夏の時期をトゥーンで過ごします。

透き通る湖と雄大な山々を目の前に

ブラームスの借家から湖までは、湖畔の歩道を挟みほんの8メートルほどしかなく、湖の向こうにはユングフラウ、アイガー北壁などの名所を望むことができます。思わず深呼吸をしたくなるような景色が広がっているのです。
ここでまずブラームスが完成させたのが、チェロソナタ第2番 作品99でした。これはヴィートマンがアマチュアのチェリストだったことが大きな理由となっているようです。さらに続けてヴァイオリンソナタ第2番

様が反映されている。第1番は情熱、憧憬、感傷等が同居したロマンティズム濃厚な音楽。第2番は温和で、古典的な美感が重視されている。第3番は、恩人シューマンの悲劇に対する苦しみと妻クララへの愛慕の狭間で悩む当時の思いを特に反映した作品とみられており、情熱的で密度の濃い音楽の中に、暗い雰囲気や緊迫感を湛えている。
ピアノ四重奏は20世紀以降も様々な作品が誕生している。今回のコンクール本選の課題曲である現代日本屈指の国際派・細川俊夫の「レテの水」は、最新の一例。2015年世界的グループ・フォーレ四重奏団のために作曲されたこの曲は、大震災に伴う福島の影響を受けた作品で、「レテ」は古代ギリシャ語で「忘却」を意味している。作曲者は以下の旨を述べている。「ギリシャ神話の黄泉の国に流れる河の1つにレテ河があり、死者はその水を飲んで、前世の記憶をすべて失ってしまうという。現世の深い悲しみを忘れて、新たな生に蘇るために。私が書きたいのは、始まりも終わりもなく流動する静かな河のような音楽。音の流れを河の静かな流動のように体験してほしい。カリゲラフィのような形態をもつ弦の流動の背景で、光のようにピアノが明滅する(要約)。
現代曲に若いグループが挑む今回は、新たな音楽世界が創造される楽しみもある。



Toshio Hosokawa

作品100とピアノ三重奏曲第3番 作品101を書き上げます。たった一夏で3曲を書き上げたことから、相当捗ったことがわかります。

ヴィートマンの証言によると、この滞在では2000メートルの高さの山に登ったり、山奥まで巨大な滝を見に行ったりと、ブラームスは大自然を満喫していたそう。

アルプスの孤独

1887年、楽しみな思いを胸に4月の終わりには2回目のトゥーン滞在向かっています。
しかしこの滞在中に、友人カール・フェルディナント・ポールの訃報に接します。ハイドンの主題による変奏曲 作品56の主題をブラームスに紹介した人物です。訃報を機に、ブラームスのトゥーンに対する印象が少しずつ変わってきます。人里離れたアルプスの湖畔に「人であることにより、作曲には集中できるものの、それが孤独感に変わってきたのです。それからブラームスはこれまでの人間関係を一人で反芻するようになります。

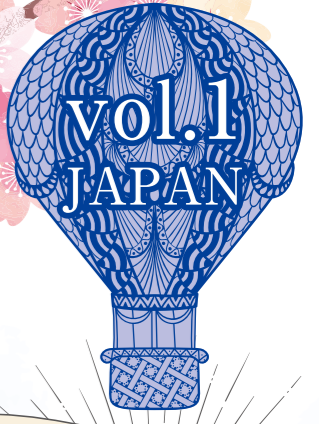
そこで、これまで関係が悪化していたヴァイオリンとト、ヨゼフ・ヨアヒムとの和解の印として、ヴァイオリンとチェロと管弦楽のための三重協奏曲 作品102を作曲し、ウィーンへ戻ります。

1888年、3回目のトゥーン滞在中ではヴァイオリンソナタ第3番 作品108を書くにとどまり、筆は明らかに進まなくなっていました。例年ブラームスはヴィートマン邸に日用品を預けてからウィーンへ帰っており、この年も荷物を預けたものの、それらをブラームスが取りに来ることはありませんでした。

このトゥーン滞在中は、ブラームスの中に宿る自然を愛する無邪気な面と、不器用な人間関係に悩み後悔する憂鬱な面を明るみにしただけでなく、それらが作品の性格や編成に大きな影響を与えています。この時期に書かれた作品は、トゥーン滞在中に生み出されたのです。



トゥーン湖に生息する白鳥の親子とマスの群れ



民族楽器で 旅する世界

日本の民族楽器

四季折々の豊かさ、海に囲まれた環境を活かし発展した日本の楽器

縄文時代は1万年と言われる。歴史で習う日本文化は西暦300年ごろから始まる古墳時代以降が中心だが、縄文遺跡の発掘が進み、出土品のなかには楽器も発見された。日本人と楽器の歴史は実に古いのである。

構成・文 / 片桐卓也



津軽三味線

沖縄には三線という長い棹を持つ3弦の弦楽器があるが、それが日本本土に伝わり三味線として発展した。棹の太さにより細棹、中棹、太棹という種類があるが、その中で太棹を使い、青森県の津軽地方で発展したのが「津軽三味線」である。そのルーツは、実は新潟県の瞽女の演奏した三味線であると言われる。北前船が活発に活動した時代に、北日本各地にこの三味線音楽が伝わり、各地の民謡などと融合した。津軽地方では盲目の男性が「門付」の楽器として使い、そこから津軽三味線を使った音楽が発展していった。高橋竹山などの奏者が登場し、撥で激しく弦を打つ打楽器的な奏法も取り入れた音楽として伝わった。



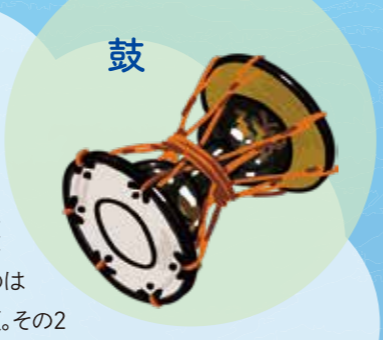
和太鼓

いまや世界でも「ワダイコ」として認知されるようになった打楽器は、やはり古墳時代から長く存在していたようだ。古墳からの出土した埴輪に太鼓が描かれていた例もある。世界的に見ても太鼓はもっとも古くから存在していた楽器である。祭り囃子や盆踊りのなかで中心的な楽器とも言えるのが和太鼓だが、構造的には太い木をくり抜いて胴を作り、その両側に皮を張って、それを撥で叩くというシンプルな構造の楽器である。戦国時代には、武田信玄の陣太鼓など、戦闘を始める合図として大きな太鼓が使われ、時刻を知らせる役目もあった。江戸時代には寺社のお祭りなどにも使われるようになった。現在では和太鼓のグループがたくさん存在している。



篠笛

尺八が竹製の縦笛だとしたら、篠笛は竹製の横笛である。構造はかなりシンプルで、雌竹に穴をいくつか開け、その内部を補強するために漆などを塗った楽器である。それゆえ、庶民階級の間でよく演奏される笛となった。現在では、日本各地のお祭りの音楽、また歌舞伎や文楽といった劇場の音楽の中で使われることも多い。三味線との相性が良い楽器ともされ、江戸時代以降、庶民のなかで広まったと言われている。ちなみに、能の世界で使われる横笛は「能管」として区別されている。音楽としては「祭囃子」「獅子舞」「神楽」など、身近なところで演奏される笛であり、耳にするチャンスも多い楽器だ。子供時代に「神楽」で篠笛を吹いたという方も多いのでは？



鼓

たくさん種類のある和太鼓のなかで、鼓は特に能の上演の時に使われる打楽器である。能の音楽は「囃子」と呼ばれるが、そこで使われるのは笛(能管)、小鼓、大鼓、太鼓の4種類。その2種類の鼓のうち、小鼓は肩に掲げて手で叩き、大鼓は膝の上に置いて手で叩く。太鼓は床に置いて、2本の撥で叩いて音を出す。能の場合は、その奏者たちが声を出すという点も特徴的だ。小鼓をよく見ると、胴(桜の木を使う)の中央部がくびれた形をしており、そこに紐(麻製)が張ってあるのが分かる。その紐は「調べ緒」と呼ばれており、その張り具合も音の重要な要素となる。また皮の部分の湿度の調整も必要だ。



尺八

尺八のそもそもの起源は中国だが、私たちがいま耳にする尺八は室町時代に起源を持つ「一節切」と呼ばれる竹から作られた縦笛であり、それが次第に発展して武家社会のなかで流行したと言われる。さらに田楽のグループの奏者が専門にこの縦笛を使用し、仏教の一派である普化宗のなかに取り入れられ、16世紀頃(室町時代)から普化宗の僧侶が吹く楽器として発展した。普化宗の虚無僧だけが尺八を吹く事を許可された時代がその後、長く続いたため、尺八は僧侶の吹く楽器というイメージが強くなったが、明治期以降はそれが民間に開放されたために、数多くの尺八のための作品が書かれ、それは1920年代からは特に盛んになった。



薩摩琵琶

琵琶は東アジアで長く発展してきた弦楽器で、弓は使わず手で弦を弾いて演奏することが特徴だった。日本には7〜8世紀頃に伝来したと言われ、ボディは紫檀という高級な木材を使い、撥を使って弾く楽器として宮廷でも愛好された。そこから次第に民間に広まり、様々な琵琶を使った音楽が発展した。薩摩琵琶もその一派だ。それはまず奈良時代から始まったとされ、その特徴は盲目の僧がお経(法華経)の一部をこの楽器を使いながら歌う「盲僧琵琶」という流れが発展したものだ。16世紀に薩摩出身の盲僧が楽器を改良し、歌うテーマも戦記物などに変えたことが転換点となり、庶民の間で愛好する人が増えたと言われる。それは明治以降、現在まで続いている。



箏

2012年の話題だが、青森県八戸市の縄文時代後期の遺跡(紀元前1000年頃)から出土した木製品が世界最古の弦楽器である可能性があるとされた。細長い<へら>のような形で、そこに毛髪や麻を撚った糸を張り、それで音を出す「縄文琴」だと言う。縄文時代から日本人は木を加工し、糸から弦を作り楽器を作り出していたとすれば、琴や箏の歴史は本当に古く、私たちの身近なところにあった楽器だと言えるだろう。現在使われる箏は近代になって改良されたものだが、その音色のなかにはるか古代の音の残響を聴く事も出来るのかもしれないと思うと、なんだか箏曲を聴くのも楽しくなって来る。新時代の箏の演奏家たちも活躍しているので注目したい。

こういう場所で聴ける

歌舞伎や能、そして盆踊りなど、様々な機会に聴くチャンスがある

いま日本で楽器と言えはほとんどが西洋から最近伝来した楽器を想像するけれど、和楽器はやはり身近な場所にちゃんと存在しており、聴く気になればすぐに近くで親しめる楽器である。

例えば、夏に欠かせない盆踊り。その踊りの中央には檜が組まれ、大太鼓祭太鼓が威勢の良い音を聴かせてくれるし、一緒に篠笛なども演奏されているはずだ。もっと本格的に和楽器の音色を楽しみたいという時には、まず歌舞伎、文楽、能を上演している場所を訪ねて、そこで演奏されている和楽器の音を聴くことが出来る。

あるいは、もしかしたら、おばあさんが若い頃からお琴を習っていて、それが家にある、なんて言う方もいるかもしれない。大人になつてから三味線の魅力に魅かれ、地味を勉強し始めたという友人も私のまわりには結構いる。

そして、世界的なブームとなっている「和太鼓」は日本各地に専門に演奏するグループがあり、特に「鼓童」などは全国ツアー、海外ツアーを積極的に行っている。そうしたグループの公演に出かけてみると、コンサートホールに響き渡る和太鼓の迫力にちょっとびっくりするだろう。ネットを使って、様々な音の情報を得る事も出来るので、チェックしてほしい。

■ 2022(令和4)年度 第2回理事会

開催：2023年3月9日(木) ホテルニューオータニ大阪
承認事項：①2023(令和5)年度事業計画書及び収支予算書
②2022(令和4)年度臨時評議員会の招集と議題
③諸規程の制定

報告事項：会長・理事長・常務理事の2022年度の職務執行状況

■ 2022(令和4)年度 臨時評議員会

開催：2023年3月29日(水) ホテルニューオータニ大阪
承認事項：①2023(令和5)年度事業計画書及び収支予算書
②諸規程の制定

■ 2023(令和5)年度 助成金交付予定事業

2023年度の助成金交付事業を決定する選考委員会で厳正な審議が行われ、9件が2月2日(木)に選考されました。

①プーランク没後60年記念公演(仮称)／
(公財)京都市音楽芸術文化振興財団

- ②訪問プログラム2023(ICEP6月日本訪問)／
認定NPO法人ミュージック・シェアリング
- ③Musicasa Tsuchikane アンサンブルシリーズ Vol.8
ベートーヴェンの室内楽part5／Musicasa Tsuchikane
- ④第3回芦屋国際音楽祭／芦屋国際音楽祭実行委員会
- ⑤the violin sonate series～5人のマエストロ×多川響子／
Office TAGAWA
- ⑥室内楽マスタークラス／(一財)住友生命福祉文化財団
- ⑦定期公演B～室内楽シリーズVol.16～Vol.20／
(特非)京都フィルハーモニー室内合奏団
- ⑧SQSアルカディア・カルテット・プロジェクト／横浜楽友会
- ⑨東京現音計画#19～ミュージシャンズセレクション7 大石将記2／
東京現音計画

(選考委員) 委員長 藤田 由之(指揮・評論)
委員 青澤 隆明(評論)
委員 沼野 雄司(桐朋学園大学・大学院 教授)
委員 横原 千史(評論)

■ 2024(令和6)年度 助成金募集について

募集期間：2023年9月1日(金)～10月31日(火)
お問合せ：日本室内楽振興財団 TEL.06-6947-2183
詳細は8月頃、ウェブサイト(www.jcmf.or.jp)で発表予定です。

主催公演レポート

グランプリ・コンサート2022代替公演 打楽器集団「男群」



ノギリをたたいて演奏

世界がコロナ禍となって、はや三年。代替公演となったグランプリ・コンサートも3回目を迎えました。通常のグランプリ・コンサートであればフェスタの年。ということで、第8回フェスタで銅賞を獲得した打楽器集団「男群」に出演いただき、全国8か所でのツアーを開催することができました。共催者様をはじめ皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ザ・フェニックスホールに集う

トップ・アンサンブルシリーズ 2022-2023

▶主催 公益財団法人 日本室内楽振興財団／あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール ▶後援 読売テレビ／読売新聞社
会場：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

アンサンブル・ミクスト (木管五重奏、日本)

第7回大阪国際室内楽コンクール第2部門 第3位

2022.12/11(日) 15:00開演

大学在学時に結成し、間もなく結成20年を迎えるアンサンブル・ミクスト。2011年の第7回大阪国際室内楽コンクール以来11年ぶりの大阪での演奏となりました。



♪曲目
モーツァルト：「劇場支配人」序曲(本多啓佑 編曲)
ミヨー：木管五重奏のための2つのスケッチ
モーツァルト：セレナード第12番 K.388
プロコフィエフ：「ロミオとジュリエット」より
ライヒャ：木管五重奏曲 二長調 op.91-3
ヴィラ・ロボス：ショーロの形式による五重奏曲

ドーリック・ファルテット (弦楽四重奏、イギリス)

第6回大阪国際室内楽コンクール第1部門 第1位

2023.2/26(日) 15:00開演

曲によってモダン弓とピリオド弓を使い分けるなど、緻密な研究に基づいた演奏を行うドーリック・ファルテット。2019年以来4年ぶりの大阪での公演でした。



♪曲目
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第11番 へ短調 op.95 「セリオソ」
ハイドン：弦楽四重奏曲 二長調 op.50-6
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第12番 変ホ長調 op.127

公益財団法人 日本室内楽振興財団 支援企業

大阪ガス株式会社 関西電力株式会社	住友生命保険相互会社 大樹生命保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 日本生命保険相互会社	川崎重工株式会社 株式会社クボタ ダイキン工業株式会社 日本製鉄株式会社 日立造船株式会社 三菱重工株式会社	非破壊検査株式会社 大塚製薬株式会社 住友化学株式会社 積水化学工業株式会社 武田薬品工業株式会社 日本ペイント株式会社	株式会社JTB 株式会社電通 株式会社ニュー・オータニ KDDI株式会社 西日本電信電話株式会社
住友電気工業株式会社 ソニーグループ株式会社 株式会社東芝 日本電気株式会社 パナソニック ホールディングス株式会社 株式会社日立製作所 富士通株式会社 ローム株式会社	野村證券株式会社 アサヒビール株式会社 サントリーホールディングス株式会社 ハウス食品グループ本社株式会社 東洋紡株式会社 株式会社ワコール	株式会社日建設計 株式会社大林組 鹿島建設株式会社 株式会社きんでん 株式会社鴻池組 清水建設株式会社 大成建設株式会社 大和ハウス工業株式会社 株式会社竹中工務店	近畿日本鉄道株式会社 京阪電気鉄道株式会社 南海電気鉄道株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 阪急電鉄株式会社 阪神電気鉄道株式会社	株式会社読売新聞大阪本社 株式会社読売新聞東京本社 日本テレビ放送網株式会社 読売テレビ放送株式会社 (関連業種別 五十音順)
株式会社関西みらい銀行 株式会社みずほ銀行 株式会社三井住友銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社三菱UFJ銀行 株式会社りそな銀行	伊藤忠商事株式会社 岩谷産業株式会社 株式会社千趣会 三菱商事株式会社			

編集・発行／公益財団法人 日本室内楽振興財団
〒540-8510 大阪市中央区城見1丁目3-50
TEL.06-6947-2183 FAX.06-6947-2198
www.jcmf.or.jp
Vol.59 令和5年4月5日
編集：菱田義和
大丸敦子(まるこ)
表紙・15-16Pイラスト：Mié

奏メンバーズ”募集!

お手元「奏」をはじめとした日本室内楽振興財団の情報が届く「奏メンバーズ」
募集中!登録・配送料は無料です。
お申し込みは、日本室内楽振興財団ウェブサイトから! www.jcmf.or.jp



こどもクラシックミュージックアトリエvol.3

2023.2/17(金) 住友生命いずみホール

出演：江戸聖一郎(フルート)、上敷領藍子(ヴァイオリン)、後藤彩子(ヴィオラ)、佐藤響(チェロ)
0才からの未就学児を対象とした、住友生命いずみホールの舞台上で演奏を聴くことができるコンサート。始まったと思ったら、ハーメルンの笛吹き男のごとくフルーティストがあらわれて、ホールのあちこちで音楽が聴ける!?ワクワク、ドキドキの45分でした。

